

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 6 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520775

研究課題名(和文) 19世紀蝦夷地における和人・アイヌの接触・交流に関する研究 北海道有珠郡の歴史 -

研究課題名(英文) Research on contact and friction that existed in migrants and indigenous people in Usu county

研究代表者

檜皮 瑞樹 (HIWA, MIZUKI)

早稲田大学・付置研究所・助教

研究者番号：00454124

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、19世紀に北海道へ集団移住した武家家臣団(巨理伊達家家臣団を中心に仙台伊達家家臣団を対象とした)に関する基礎的な資料調査を実施するとともに、資料群の目録化作業を行った。また、有珠郡をモデルに移住者と先住者(アイヌ民族・先住和人)との接触と軋轢に関して、蝦夷三官寺の一つである有珠善光寺の果たした役割、及び有珠郡の領主権力としての巨理伊達家の果たした役割について明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research was carried out basic resource about samurai vassal migration of to Hokkaido in the 19th century, and became a catalog of this materials group. It proved that contact and friction that existed in migrants and indigenous people in "Usu county".

研究分野：日本史

キーワード：日本近代史 アイヌ史 移住史

1. 研究開始当初の背景

- (1) 蝦夷地・北海道開拓史研究において、移住和人数についての実証的研究が大きく不足していた。また、移住前の社会集団との関係性、特に移住後におけるネットワークの存在については明らかにされていなかった。
- (2) 移住和人数に関する研究において、開拓者の苦勞や成功、そのことと現在の北海道の繁栄との関係に関心が集中する一方で、先住民族であるアイヌ民族との関係について語られることは少ない。特に、移住者と先住者とのコンフリクトについては研究の対象とされることが少ない状況であった。

2. 研究の目的

- (1) 19世紀における蝦夷地・北海道の先住民族であるアイヌ民族と、和人数移住者との接触・交流に関する総合的研究を目的とした。
- (2) 幕府や開拓使、あるいは蝦夷三官寺等が実施したアイヌ統治政策を、特に実地レベルでの展開プロセスに着目することを目的とした。
- (3) 和人数移住者、特に集団移住武家家臣団とアイヌ民族との生活空間における軋轢や共存の実態を分析することを目的とした。
- (4) 集団移住武家家臣団の地域社会形成に着目し、武士としてのアイデンティティ形成に関する研究を目的とした。

3. 研究の方法

- (1) 蝦夷三官寺の一つであり、有珠郡支配と深く関連した有珠善光寺関係資料(伊達市噴火湾文化研究所所蔵、及び北海道立文書館所蔵)の調査を行った。
- (2) 巨理伊達家の家老職を務めた田村顕充関係資料(個人蔵)の調査・撮影を行った。
- (3) 巨理伊達家及び家臣団の菩提寺である大雄寺が所蔵する巨理伊達家家臣団資料の調査・撮影を行った。
- (4) 巨理伊達家の移住前居住地である宮城県巨理町での資料調査、及び巨理伊達家と同時期に胆振郡に移住した片倉家関係資料(登別市郷土資料館所蔵)の調査を行った。
- (5) 移住武士団と先住者(アイヌ民族・先

住和人数)との関係性について研究を行なった。

4. 研究成果

- (1) 田村顕充関係資料(田村家資料)の調査・撮影を実施し、以下の成果を得た。資料群は全体で14群に分類し、総レコード数は695件であり、資料群全体の撮影を終了した(総コマ数8628の撮影を実施)。
- (2) 巨理伊達家家臣団資料(大雄寺所蔵)の調査・撮影を実施した。詳細な内容は以下である。また、下記家臣団資料の目録化作業を実施し、その成果を2014年10月に『巨理伊達家文書調査会研究成果報告書 北海道伊達市大雄寺所蔵巨理伊達家中諸家文書目録』のタイトルで発行した。さらに、発行した目録を北海道内の各大学・公立図書館・郷土資料館等、及び宮城県内の図書館等に広く配布し、研究成果の公開とその共有を図った。

羽田家文書;巨理時代の任免状を中心に家格・由緒に関わる資料92レコード・648コマ。

二階堂家文書;任免状・知行宛行状を中心に34レコード・204コマ。
加藤家文書;知行宛行状・書状・詠句短冊など28レコード・135コマ。

半沢家文書;手習本・写本を中心に91レコード・1093コマ。

村木家文書;任免状・知行宛行状を中心に212レコード・1258コマ。

星家文書;相馬野馬追図屏風を含む資料群。

- (3) 有珠善光寺関係資料の調査を行い、移住者と埋葬儀礼との関係、幕府・開拓使の宗教政策との関係について分析した。
- (4) 巨理町に所在する二階堂家文書(旧家解体の際に襖下張として発見された526レコードの資料群)に関して、北海道伊達市の古文書解読サークルである「いろはの会」と共同して文書の解読作業を実施した。また、文書目録を作成した。
- (5) 研究成果の公開のため「武家文書シンポジウム・海を渡った武士たち 移住者の記録から地域を考える」を2014年10月18日に開催した。
シンポジウムでは、第一に巨理伊達家文書の歴史的意義に関して、協力者・工

藤航平が「巨理伊達家家臣団諸家文書の世界」をテーマに報告を、協力者・磯部孝明と石田七奈子が諸家文書を用いた具体的な実証報告を行った。

第二に、巨理伊達家家臣団資料の比較史的検討を実施した。具体的な報告としては、研究分担者・伊達元成が報告を行うとともに、登別に移住した片倉家の事例に関して平塚理子（登別市郷土資料館学芸員）が、近世巨理伊達家とその歴史資料に関する報告を菅野達雄（宮城県巨理町郷土資料館学芸員）がそれぞれ報告を行った。

第三に、巨理伊達家資料の歴史的普遍化、及び先住者であるアイヌ民族・先住和人との交流・軋轢に関する分析として、代表者・檜皮瑞樹が「比較史研究の射程」をテーマに報告を行い、さらにパネルディスカッション「移住者たちの記録から地域を考える」を実施した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 4 件)

1. 檜皮瑞樹、「1884年の東京専門学校朝鮮人留学生に関する研究ノート」、『早稲田大学史記要』、査読無、46巻、2015年、pp.37-52
2. 添田雄二・青野友哉・伊達元成・外 8 名、「北海道における小氷河期寒冷期の実態とアイヌ民族との関係」、『北海道開拓記念館研究紀要』、査読無、41巻、2013年、pp.43-58
3. 檜皮瑞樹、「19世紀、民衆運動とマイノリティ」、『韓国文化』、査読有、60号、2012年、pp.271-284
4. 添田雄二・青野友哉・伊達元成、「北海道における小氷河期寒冷期の実態とアイヌ民族との関係(1) 伊達市カムイタブコブ下遺跡およびポンマ遺跡での調査速報」、『北海道開拓記念館研究紀要』、査読無、40巻、2012年、pp.123-142

〔学会発表〕(計 4 件)

1. 檜皮瑞樹、「比較史研究の射程」、シンポジウム・海を渡った武士たち、2014年10月、伊達市カルチャーセンター
2. 伊達元成、「伊達市における文書資料の所在とその特性」、シンポジウム・海を渡った武士たち、2014年10月、伊達市カルチャーセンター
3. 伊達元成、「決断の時を迎えて アイヌ民族の天災体験と巨理伊達家家中の移住決

意」、『東北大学東北アジア研究センター・伊達市噴火湾文化研究所第4回学術交流連携講演会、2012年12月、仙台市ベルエア会館

4. 檜皮瑞樹、「19世紀の民衆運動とマイノリティ」、『2012年度奎章閣韓国学研究院HK事業団国際シンポジウム・東アジア社会の葛藤と調整(招待講演)』、2012年8月、ソウル大学奎章閣韓国学研究院

〔図書〕(計 3 件)

1. 久留島浩、『岩波講座・日本歴史・近世4』、岩波書店、2015年
2. 久留島浩・須田努・趙景達、「薩摩・朝鮮陶工村の四百年」、『岩波書店、2014
3. 檜皮瑞樹、『仁政イデオロギーとアイヌ統治』有志舎、2014年

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

檜皮瑞樹 (HIWA MIZUKI)
早稲田大学・大学史資料センター・助教
研究者番号：00454124

(2) 研究分担者

久留島浩 (KURUSHIMA HIROSHI)
国立歴史民俗博物館・教授
研究者番号：31061772

伊達元成 (DATE MOTOSHIGE)
伊達市噴火湾文化研究所・研究員

研究者番号：70620897

(3)連携研究者
()

研究者番号：